

小中学生版 Vol.15

発行所 〒329-0101
栃木県下都賀郡野木町大字友沼5840-7
野木町社会福祉協議会
(この新聞は共同募金配分金事業で発行されています)
令和2年2月20日発行



かんが ぶくしきょういく
みんなで考える福祉教育
ちいさなふくししんぶん



地域福祉新聞



先生、ボランティアの方々と
連絡会議の様子♪

野木町社会福祉協議会では、町内の小・中学校7校を「学童・生徒のボランティア活動普及事業」協力校に指定し、各校の福祉教育担当の先生と社会福祉協議会、ボランティアの方々と交えて年3回連絡会議を開催しています。

ここでは、令和元年度に行われた各校の福祉に関する事業、福祉教育に関わるボランティアの方々、社会福祉協議会で開催した事業の様子を掲載いたしました。

友沼小

友沼小学校では、四年生が「総合的な学習の時間」に福祉の学習をしています。ハンディキャップ体験では「アイマスク体験」「車いす体験」「高齢者疑似体験」を実施し、ハンディキャップのある方がおかれている状況や、障がいに対する理解を深めることを目標に活動しました。チャレンジフェスティバルでは、耳が不自由な方からお話を聞いた。手話サークル「虹の会」「野和の会」の皆様から手話を教えていただいたり、貴重な経験をすることができました。



4年 野村 春陽

ぼくは、最初手話はむずかしいと思っていたけれど、ボランティアの方々ができない手話を教えてくれたのでできるようになりました。とくに、自分の名前をみんなの前で発表するところはきんちょうしましたが、できてうれしかったです。これからいろいろな人と手話で話してみたいです。



手話体験

4年 小林 亮斗

ぼくは、手話を体験していろいろなことが分かりました。もし耳が聞こえない人に出会ったら、今回習った「こんばんは」や「ごくろうさま」の手話を使って話してみたいと思いました。また、他にももっと手話のことを調べてみたいと思いました。



4年 田中 裕士

高齢者の体験をしたら、自分が思っているように体を動かせませんでした。また、見えにくく、聞こえにくいことも分かりました。高齢者は自分が予想していた以上にづらいことが分かりました。もし高齢者を見かけたら助けたいと思いました。



高齢者疑似体験

4年 上原 虎鉄

高齢者疑似体験をしてみて、高齢者の生活はとても大変なことが分かりました。豆つかみや名前を書くのが上手にできなくてびっくりしました。また、歩くこともとてもむずかかったです。町で高齢者に出たら助けたいです。



4年 横田 美和子

わたしはアイマスク体験をして歩くのがとても大変でした。白杖をもって何も見えないままかいたんをのぼったり、おりたりするのはこわいことが分かりました。これから目の不自由な人が何か困っていたら助けたいと思いました。



アイマスク体験

4年 小島 華夏

わたしはアイマスク体験をして、「目の見えない人はこんなに不自由な思いをしているんだな。」と思いました。それは、障害物があるとよけにくいことです。実さいに体験してみてもびっくりだったのでこわいと思いました。



4年 三浦 奈々

わたしは車いす体験を通して、車いすをおす人の大変さがよく分かりました。のぼるときはティップングレバーをふむことで少しのたん差を上げられるようになることが分かりました。足の不自由な人も大変だけれど、車いすをおす人も大変だと分かりました。



車いす体験

4年 坂入 美羽

わたしは車いす一人で道を通るのはむずかしいと思いました。車いすでは、自分が当たり前毎日していることもあまりできないと思いました。だから、車いすに乗っている人の生活が気になりました。これからは困っている人を見かけたら助けたいと思いました。





手話体験

4年 熊倉 柚希
聴覚障がいの方との話し方や、聾学校のことが良く分かりました。

4年 土屋 葵
手話はローマ字のように表すと
思っていたけれど、ジェスチャーの
ように表す手話もあると学びました。

点字体験

4年 栗田 颯空
点字を打ってみて難しかった
けれど、上手に打つと「プス」と
いう音が出て楽しかったです。

4年 沼田 士門
丁寧に教えてくださった
ので、点字を上手に打つ
ことができました。



朗読体験

4年 風間 弘美
朗読体験をして、これからは聴覚障がいの方と話すときには口の開け方に気を付けようと思いました。

4年 大瀧 環奈
朗読で「消しゴム」を読んでいるときに、みんなの心が一つになった気がして嬉しかったです。

盲導犬講座

4年 加藤 柚葉
盲導犬を指導するときは英単語を使い、わかりやすく指導すると知りました。

4年 渡辺 真里愛
盲導犬にハーネスをつけて、一緒に歩くととても安心できました。



4年 海老沼 唯菜
ハンディキャップ体験で高齢者の体の重さや不自由さを学ぶことができました。



4年 関澤 賢一
車いすを一人で運転するのは難しいと知りました。

4年 堀越 美道
ハンディキャップ体験で、視覚障がいや肢体不自由の人について分かりました。

ハンディキャップ体験

4年 小堀 心春
高齢者の方の毎日の生活について考え、とても大変なのだと分かりました。

4年 長澤 雄斗
アイマスクをつけて歩くのは簡単だと思っていたけれど、階段を下りるのが難しかったです。



4年 藤沼 啓人
様々な体験をして、どこかが不自由な人の気持ちや大変さについて考えることができました。

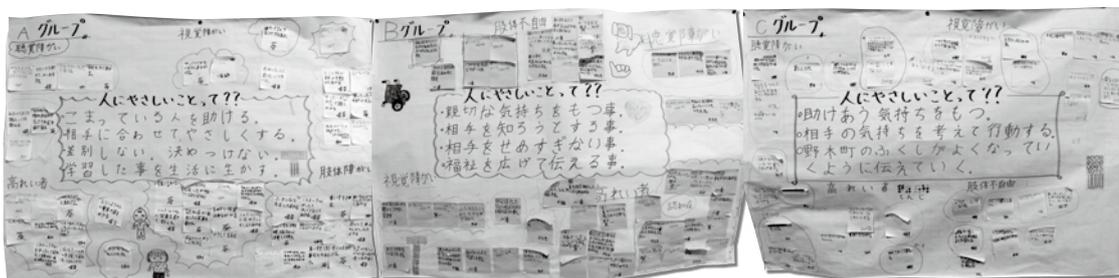
野木小

野木小学校では、四年生の総合的な学習の時間に『福祉』について学習しています。ハンディキャップ体験、盲導犬講座、手話や点字、朗読サークルの方々とのおふれあいなど、貴重な体験を通して「ひとにやさしい」とはどのようなことなのか、自分にできることは何か等、考えを深めることができました。体験を通して考えたことをグループでまとめたあと、自分のテーマを決めてさらに詳しく調べ、発表会を行いました。



みんなのまとめ

「人にやさしいことって？」



佐川野小

佐川野小学校では、地域の方々やボランティアの方々の方に協力していただきながら、福祉の学習をしています。今年度も四、五年生が「認知症サポーター養成講座」を受け、認知症についての知識を深めることができました。また、四年生は総合的な学習の時間に「高齢者疑似体験」「アイマスク体験」「車椅子体験」をしました。各体験をした児童の感想を紹介します。十一月二日(土)の佐川野っ子祭りでは、地域の方々を講師としてお招きし、「絵手紙」「竹とんぼ」「テープ細工」「折り紙」「お手玉」「缶づくり」の中から自分がやってみたい物作り体験を選び、楽しく活動しました。その中から三つの体験活動の感想を紹介します。



6年 柿沼 美有

私は、認知症の人に接する時に、大切なことを今日の授業で学びました。それは、「あせらせないこと。」「おどろかせないこと。」などが注意すべきことと思いました。

例えば、驚かせてしまうと、認知症の方がこちらが思うよりびっくりします。また、焦らせることにより、パニックになってしまいます。接する時の私たちの行動により、思わぬことが起きてしまいます。認知症の方々に接する時には、今後自分自身も気を付けたいと思います。

認知症サポーター養成講座

5年 渡邊 優奈

私は認知症サポーター養成講座をうけて、お年寄りとの接し方を2つ学びました。1つ目は、相手をあせらせないように、ゆとりをもって、やさしい気持ちで接することです。2つ目は、ゆっくり、はっきりと話しかけることです。この2つを意識しながら、お年寄りと接していきたいです。

総合的な学習の時間



高れい者ぎ似体験 4年 寶示戸 彩名

わたしは、足や手におもりをたくさんつけて歩いてみました。また、腰が曲がるいつも通りに歩けなくて、階段やだん差のところをのぼるのがとても大変でした。これからお年寄りが大変そうにしていたら、声をかけたり、支えたりしたいです。



アイマスク体験 4年 井上 萌愛

わたしは、初めて目をアイマスクでかくして歩きました。目の前が見えないと、とても不安でたまりませんでした。でも、友達が声をかけてサポートしてくれたので、どうにか歩くことができました。周りの人が、早めに声をかけてあげることが大切だと分かりました。



車いす体験 4年 鈴木 健太

ぼくは車いすをお試みて、だんさのところや曲がるときになかなか進まず、大変でした。また、足が不自由な人は車いすに乗ったり、おりたりするのも苦労することがわかりました。だから、車いすの人を見かけたら、やさしく声をかけたいと思いました。

佐川野っ子祭り 物作り体験活動

え手がみ 1年 はやみず みあ

わたしは、さがわのっ子まつりのものづくりたいけんで、え手がみを作りました。りんごとみかんのえをかきました。え手がみづくりは、むずかしかったけれど、ちいきの人に教えてもらったので、とてもたのしかったです。また、やってみたいとおもいました。



テープ細工 2年 渡邊 愛織

わたしは、はじめてテープ細工をやりました。紙のような長いものをあんで、かごを作りました。とてもむずかしかったけれど、おかあさんや地いきの方が手伝ってくれたので、上手にかんせいしました。とてもうれしかったです。

お手玉 3年 岩崎 莉奈

わたしは、物作り体けんで「お手玉」を作りました。地いきの人に教えてもらいました。はじめてだったので、うまくできないと思っていたけれど、地いきの人が教えてくれたので、うまくできました。3つ作ってお手玉であそびました。さいごに、体育館で物作り体験のはっ表をしました。来年もじょうずに作れるといいです。



南赤塚小

手話体験 4年 伏木 心優

実際に耳の不自由な方と初めてお会いしました。手話を使えばお話できることが分かってうれしかったです。もっと手話をおぼえてお手伝いできるようにになりたいです。



点字体験 4年 金久保 真生

親子で点字を教わって、楽しかったです。目の不自由な方は、このでこぼこで文字を読むことができるのがすごいと思います。みんなが、住みやすい街になるよう、私も役に立ちたいと思います。



ひまわり荘見学 4年 岩崎 晴希

ひまわり荘を見学して、施設の様子やお年寄りの方々の生活について学びました。これからは、困っているお年寄りの方を見かけたら手助けをしたいです。



アイマスク体験 4年 田村 梨紗

アイマスク体験をして、目の不自由な方が道を歩くときの気持ちが分かりました。介助する人は、目の不自由な方が安心して生活できるようにサポートしていると学びました。



車いす体験 4年 荒川 晃太郎

車いす体験をして、段差を自力で乗り越えることが難しく、友達に押しってもらうことで乗り越えることができました。車いすの人を見かけたら、手助けする優しさを持ちたいです。



人権週間



5年 眞瀬 遥

みんなと交換した名刺を見ると、一人一人字も書き方も違うので、「一人一人個性があり、みんな違う」ということを改めて感じました。これからもいろいろな人と仲良くしていきたいです。

6年 関 遥叶

ボランティア委員の「あそび」を聞いて、みんなが楽しく笑えることをあそびということが改めて分かりました。これからも学年関係なく、みんなと仲良くしていきたいです。



ボランティアチャレンジスクール

5年 青木 優心

ひまわり館は思った以上に広く、いろいろな部屋があってびっくりしました。ふれあいサロンでは、高齢の方がとても元気でびっくりしました。



5年 池田 瑠香

障がいのある人や認知症の人が楽しく過ごしている様子を見て、すごいなと思いました。点字はとても難しかったけど、楽しかったです。

4年 熊谷 まひろ

ボランティアチャレンジスクールでいろいろなことを学びました。ふれあいサロンでは、65歳以上の方とダンスをしたり、昔遊びをしたりするのが楽しかったです。

4年 高橋 美結

ボランティアチャレンジスクールに初めて参加しました。様々な体験をし、一番難しかったのは手話です。一つ一つ言葉を覚えるよりも何倍も難しかったです。

南赤塚小では、四年生の総合的な学習の時間「みんなに優しい街づくり」の学習で、点字体験、車いす体験、アイマスク体験などを行っています。人権週間には人権集会を行い、いじめをなくすための行動目標とその成果を学年ごとに発表しました。また、名刺交換ゲームやボランティア委員の児童による「あそび」という詩の発表を行いました。夏休みには毎年たくさんの児童が「ボランティアチャレンジスクール」に参加しています。

新橋小

新橋小学校では、地域の学校支援ボランティアの方々の協力を得て、体験学習を充実させています。四年生の総合的な学習の時間では、福祉について学習し、「だれにとっても住みやすい町」について考えています。クラブ活動では、専門的な知識のある方々に教えていただくことで、できた喜びを味わうことができました。三年生の社会科「昔のくらし」、一年生の生活科「昔のあそび」では、地域の老人クラブとの交流も続いています。地域の皆様にお話を聞いたり、ふれ合ったりしながら、たくさん学ぶことができました。

PTA親子奉仕作業

「栃木掃除に学ぶ会」(野木町在住の原田孝之様代表)の協力を得て、トイレ掃除を行いました。地域の方と交流を図りながら、社会奉仕の精神を養うことができました。

5年生児童の感想

- 最初はちょっと嫌だと思ったけれど、やっていくうちに楽しくなりました。何事もやってみることが大切だと感じました。
- 蛍光灯外しや道具を使ったトイレ掃除など、初めての体験をたくさんできて楽しかったです。これからは、もっと上手に掃除できるようにしていきたいです。
- 奉仕作業を通して、何でも嫌がらずにやることの大切さを学ぶことができました。



生活科『昔のあそび』

現2年生が1年生の時に、丸林西富士見会、卯ノ木クラブ、新橋ローズクラブのみなさんから、生活科の学習で「昔のあそび」を教えてくださいました。

竹馬・めんこ・羽根つき・竹とんぼ・こま回し・あやとり・お手玉・けん玉・おはじきなど、普段なかなか遊ぶ機会の少ない遊びに、子どもたちは興味津々でした。みなさんの名人芸を見て歓声をあげ、「ぼくたちもやりたい!」と意欲的に取り組みました。



感謝のつどい



いつもお世話になっているボランティアの方々に感謝の気持ちを込めて、歌やカレンダーのプレゼントをしました。また、会食をして楽しい時間を過ごしました。

児童の感想(低学年)

- ・こんなにボランティアさんがいるなんてびっくりしました。
- ・ボランティアさんはぼく達のためにがんばってくれているんだなと思いました。ありがとうございましたと伝えたいです。

総合『心のバリアフリー』

4年生児童の感想

- 目の不自由な先生が、私が打った点字をちゃんと読んでくれました。手話と同じで、相手に分かってもらえると、とてもうれしいんだな、と思いました。
- 「手話は、心をこめて指に力を入れてやらないと伝わらない。」という言葉が一番心にひびきました。私は、相手に何か伝えるときは、手でも口でも心をこめていねいに伝えることが大切だということ学びました。



クラブ活動

ゲートボール、アート、ボードゲーム、手芸、ミュージックの5つのクラブでは、地域にお住まいで専門的な知識を持ち、教えに来ていただける方をお願いし、ご指導をしていただいています。



児童の感想

- 手芸クラブの小物作りでは、ボランティアの先生に優しく教えてもらったおかげで、立派な手さげ袋を完成させることができました。ありがとうございました。
- ゲートボールクラブでは、ボランティアの方々の熱心な指導のおかげで、僕たちの目標である「町の大会で優勝」を達成することができました。



野木中

古紙・アルミ缶回収

3年 横島 右玲思

福祉委員会では、毎月末の2日間で「アルミ缶・古紙回収」を行っています。各生徒が1か月で集まったアルミ缶、古新聞や古雑誌を持って来て、アルミ缶は個数を、新聞や雑誌は重さを測って各クラスの福祉委員に報告します。生徒や先生方以外にも地域の方々が協力してくださり、毎月たくさん集まっています。各クラスの福祉委員は帰りの会などで呼びかけをして、全員協力達成率100%を目標に頑張っています。アルミ缶・古紙回収での収益金は、私たちの学校生活における大切な資金になっています。これからも、たくさんのアルミ缶や古紙を集めることができるよう、ご協力をお願いします。



ペットボトルキャップ回収

3年 田口 桜花

野木中学校では、福祉委員会を中心にペットボトルキャップを回収しています。生徒昇降口と新体育館入り口には回収箱があり、また、月に2日間行われるアルミ缶・古紙回収時にも協力を呼び掛けています。新体育館入り口では、夜間開放の際に一般の方にも協力していただき、たくさんのペットボトルキャップが集まっています。集まったペットボトルキャップは、ホープ館に運ばれてリサイクルされます。このリサイクルにより、世界中の恵まれない子供たちがワクチン接種を受けることができます。ぜひ、ペットボトルキャップの回収にご協力をよろしくお願いします。



和太鼓演奏

3年 橋本 侑佳

1年生の時に、全員の団結力や一体感、華麗なバチさばきに心を打たれた私は、3年間和太鼓講座で活動しました。そして、3年生では「八丈」を演奏することになり、3年間の集大成として最高の演奏にするために日々練習に励みま

した。その他にも、1・2年生の曲もすばらしい演奏になるように3年生が分担して教えました。

今年の潤心祭では、野木町中に響くような演奏ができ、最高のパフォーマンスとなりました。3年生による虹の舎の発表では、たくさんの方々に来ていただき、多くの温かい言葉をいただきました。私たちもたくさんの笑顔を届けることができたと思います。中学校生活最後の文化祭で、良い経験をすることができ、良い思い出になりました。



野木中学校では、福祉委員会を中心に毎月古紙・アルミ缶回収を行っており、その収益金で学校生活に必要な備品を購入しています。各教室の電波時計は、アルミ缶・古紙回収の収益金で数年前に購入しました。昨年度は、体育館の冷水機購入の一部に使われました。潤心祭では、和太鼓やソーラン節を披露しましたが、虹の舎でも演奏し、たくさんの方々に聴いていただきました。

野木二中

野木第二中学校では、六月の「ひまわり荘訪問」で、お年寄りの皆さんと七夕の飾りつけを楽しみました。また、十月には「輝光祭」において、台風19号義援金の募金活動やハンディキャップ体験、ひまわり荘の方々の招待して、楽しい時間を過ごすことができました。このことは貴重な体験となり、今後の生活に生かしていきたいと思えます。



ひまわり荘訪問 七夕飾り

3年 野村 優希

私は、ひまわり荘に七夕の飾りつけをしました。短冊を飾っていると、声をかけてくださる方がいたり、一緒に短冊を飾ったりして、ひまわり荘の方と交流することができてよかったです。

ひまわり荘の方の短冊に「笑顔でいたい」という願いごとがありました。私は、この願いごとを見て、もっと高齢者の方と交流をして、笑顔をつくりたいと思いました。これからも、たくさんの方と一緒に交流したいと思います。

3年 吉田 哉子

今年度もひまわり荘の七夕飾りつけに参加しました。2本の笹の木の見たことのない大きさにとっても驚きました。福祉委員会の生徒や友達と一生懸命作った飾りをつけていくと、最初は緑だった笹がとても鮮やかになりました。ひまわり荘の利用者の方が喜んでいて、嬉しくなりました。利用者の方の短冊には「唐揚げをいっぱい食べたい」「早く家に帰りたい」など特別な願いが書いてありました。私も、短冊に願いごとを書いて笹につけました。利用者の方と楽しみながら素晴らしい笹を完成させました。利用者の方の笑顔を見られてとても嬉しかったです。短冊に書いた願いが叶うことを願っています。



輝光祭 台風19号義援金募金

3年 永田 幸雨

先日行われた輝光祭では、福祉委員会の活動の一つとして台風19号義援金募金を行いました。多くの方々のご協力でたくさんのお金が集まりました。本当にありがとうございました。私は、今回の活動を通してみなさんの心の温かさを知ることができました。私もボランティア活動や募金を積極的に行い、少しでも被害にあわれた方を支援できたいなと思いました。

輝光祭 ハンディキャップ体験

3年 中山 裕貴

私は、車いすを使った体験や体におもりを付けるなどして高齢者の大変さを知ってもらう活動をしました。高齢者にとっては私たちが普段平気でやっていることも、障害になってしまっていることを感じました。今回の輝光祭を通して学んだことを今後の生活に生かしていきたいです。



3年 伏木 海人

体験を通して思ったことは、歩くだけでも疲れるということです。みんな体験しているとすぐに座ってしまったり、止まってしまう。私は、こんなに体力のある中学生がすぐに疲れてしまうことにびっくりしました。この体験を通して、高齢者は歩くだけでも大変だと知りました。私は、高齢者が歩いていたら、手を貸してあげたいです。



輝光祭 ひまわり荘接待

3年 鶴見 来未

輝光祭のひまわり荘接待は私にとって、とても貴重な体験でした。お年寄りの方と遊んだり、展示を観たりと楽しい時間を過ごすことができ、とても嬉しかったです。話す時には声の大きさやスピードに気をつける、歩くペースをあわせるなど意識することはいくつかありました。しかし、そのおかげもあり話が弾み、打ち解けることができました。

手話サークル「虹の会」

川井 みな子

手話サークル虹の会は平成元年9月に発足し、令和元年で創立30周年を迎えました。そこで元NHK手話ニュースキャスター田中清さんをお招きし、記念講演会を開催しました。近隣地域の手話サークルや聴覚障がい者の方々とも交流し、貴重な経験ができました。これからは勉強を続ける上でとても励みになりました。

サークルでは毎年野木町内の5つの小学校を訪問し、耳の不自由な仲間と一緒に手話体験学習を行っています。実際、目の前で耳の聞こえない人と交流し、ふれあうことで、子どもたちに伝えたいことは「人と人との繋がり」そして「思いやりの心」です。

耳が聞こえないという不自由さは、外から見ているだけでは見分けづらいことです。もし、あの人聴こえていないのかしら？と感じる場面に出会いましたら、そばに近寄り肩などをそっとたたいて、視線が合ったら「こんにちは。」と勇気を出して声を掛けてみてください。

お子さんが学校で覚えてきた手話で家族揃って楽しんでいただき、そして覚えた手話を使っていたら嬉しいです。



手話サークル「野和の会」

活動日：毎週月曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：1,000円

手話サークル「虹の会」

活動日：毎週土曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：1,000円

点友会「のぎ」

中野 啓子



点友会「のぎ」

活動日：第2・4火曜日(午前10時～正午)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)
年会費：500円

視覚障がい者の文字である「点字」が、今では公共施設はもちろん、電化製品、飲料品にいたるまで使われており、安全に配慮された社会になってきました。しかし、視覚障がい者にとって危険な場所とされている駅のホーム、そこでの転落事故が毎年数件起きています。ホームにいる人たちの中には白杖を持っている人に気づいた人もいたでしょう。一人でも声をかけていたら、危険を知らせ、手を貸していたら救えたかもしれません。

私たちは点字ボランティアとして、町内の学校やイベントに参加協力させていただいています。点字の打ち方を覚え、興味を持ってもらうことはとても大切ですが、それ以上に知ってほしいのが、「視覚障がい者に会ったら勇気を出して声をかける」「安全な歩行をサポートする」。その助けを待っている人がいるのです。

「思いやりの気持ちを行動に移す」「人と人との支え合い」そのことを伝えられたらと思っています。

朗読の会「のぎく」

小川 登喜子

視覚に障がいがある人が皆点字が読める訳ではありません。病気や事故などで大人に成ってから失明する人も居ますし、点字を勉強していないと点字は読めません。そういう人達はだれかに読んでもらったりにしゃべってもらったりして、耳で聞いて情報を得ます。そのだれかが私たち朗読の会「のぎく」なのです。

町や社会福祉協議会から配布される広報やお知らせ等を読んで録音し、CDに編集して視覚に障がいがある方に郵送しています。

ボランティアチャレンジスクールでは、情報を正確にわかりやすく伝えるためには、どんな事に気を付けて読めばよいのかを学習してもらいました。実際に録音も体験してもらいました。録音本番は緊張した面持ちでしたが、みんな真剣に取り組んでくれました。目がキラキラと輝いていたのを忘れません。また夏休みにホープ館で待ってま～す。



朗読の会「のぎく」

活動日：第1・2・3水曜日、第4金曜日
(午後1時30分～午後4時)
(第1水曜日は午前9時30分～)
場 所：ホープ館(町老人福祉センター)、
図書館 他
年会費：500円

2019年度

ボランティアチャレンジスクール

「高齢者と認知症」

- 1日目：開講式・オリエンテーション/
福祉講座(手話・点字・朗読)/押し花体験
- 2日目：ひまわり館見学/ふれあいサロン交流体験/認知症サポーター養成講座
- 3日目：認知症講座/デイサービス利用者様と交流(場所：千葉市認知症疾患医療センター)
- 最終日：まとめ/竹細工講座/流しそうめんとBBQ/修了式

オリエンテーションの後は、初めてのグループワーク！



点字体験！
集中、集中……

押し花体験！
カラフル♪



ひまわり館見学。
キッズルームでワクワク♪

ふれあいサロン交流体験♪
みんなで卓球バレー！



認知症サポーター養成講座で
発表中……。

千葉県は千壽苑で、
利用者様にプレゼント作り♪



まとめの発表！
どのグループも素晴らしい！



竹細工で
器と箸を作って
流しそうめんを
やるぞー！！

男子の
流しそうめんは、
頭脳戦！？



協力ボランティアの皆様
ありがとうございました！

12月14日(土)
エニスホールで開催された
「ふくしのつどいのぎ2019」にて
まとめが特に優秀だったグループの
発表と、表彰状・記念品の授与が行われました。



ふくしのつどいのぎ2019



認知症予防講座
講師 神田 壽昌氏

会場は感心の声と笑顔に包まれて、アンケートでも多くのお褒めの言葉をいただきました。
発表前の控室では緊張からなのか(!?)お菓子を食べる手が止まりませんでした★
参加者、保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

